

芦生からの便り 第2回



想定外の仕事 その1

こんにちは！芦生研究林です。
今回は、職員の“想定外の仕事”について、書いてみたいと思います。

芦生研究林は、「多種多様な要請にも応じられるのが、職員一同の誇りです」と、前号に書きましたが、それを支えているのは、技術職員や事務職員です。これを書いている私（教員）などは、大学での講義もありますし、会議もあります。また、その間には、出張や学会も…。ですから、実質、芦生を管理・運営してくれているのは、彼等なのです。

今回のテーマ“想定外の仕事”の仕事、「遭難者の救助」にも、それは現れています。
芦生は、90%以上が天然林だと、それも前号に書きました。その為、その自然の中で過ごしたい、と芦生を訪れる方は、年々増えています。その結果、遭難する方も増えているのです。ここ数年は、年に2~3件の割合で事故が起きています。

警察に捜索願が出されると、警察や消防署からの協力要請が研究林にきます。
そういった場合、直ちに芦生研究林は協力体制に入ります。芦生研究林（東京ディズニーランドの82個分）の森の中を知っているのは、何といても、技術職員や事務職員ですから、彼等の道案内が無ければ、警察も消防隊も動きが取れない訳です。それに、遭難しやすい場所の特定、怪我人を搬送するヘリコプターのホーバリング（空中で、停止したような状態を保つ行為）の場所の案内、警察や消防隊の人達の二次災害を防ぐための判断・案内等、やらなければならない事は、非常に多いのです。そのため、「遭難救助」も彼等の手にかかっていると言っても、過言ではないような気がします。（残念ながら、教員はあまり、と言うか、全然、お役にたちません）

しかも、警察や消防隊の人達は、日数が長引けば、人を入れ替える事も出来ませんが、研究林の職員は どんなに日数がかかろうとも、交代要員がいるわけではありません。いるだけの職員で、対応しなければなりません。それも、曜日・時間を問わず…。そして、一番辛いことは、いつも遭難者が、生きて帰ってきてくれるとは限らない、ということです。

これも仕事のうちだと言われれば、それまでですが、芦生研究林の職員の仕事の中には、こんな“想定外の仕事”も含まれています。

これを読まれた皆さん、どうぞ山歩きの際は、くれぐれも細心の注意をもってお出かけください。これは、職員の苦勞を知る私からのお願いです。

（文：芝 正己）



カナクギノキの実
果期：6~10月
研究林所蔵



オタカラコの花
花期：7~9月
研究林所蔵